

# 悠久の京を訪ねて Part II Vol.2



KYOTO  
ARCHAEOLOGY CENTER

京は古より人々が集い、その気候・風土の中、人々の生活が営まれてきました。

京都府内の遺跡で多数発掘された出土物により縄文、弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。

私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのか、出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

## 絵馬になった馬

### 馬形埴輪

古来より、馬は人間と関わってきました。馬の家畜化は紀元前4000年から3000年ごろに行われたとされています。馬が日本で飼われるようになったのはいつからでしょうか？

発掘調査では、縄文時代や弥生時代の遺跡から馬骨の出土が報告されることがありますが、新しい時代の馬骨が混じり込んだと捉える意見もあり、なかなか決着は付いていません。3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、我が国に「牛馬なし」と記されています。



写真1：上人ヶ平16号墳出土の馬形埴輪

確実なのは、古墳時代中期以降と言えます。古墳に馬具が副葬されたり、馬を象った埴輪(写真1)が並べられたりしていますので、この頃までに大陸から馬が馬具とともにもたらされたのでしょう。

京都府八幡市

京都府木津川市

京都府相楽郡精華町



### どば 土馬と絵馬

古墳時代の終わり頃には、土馬と呼ばれる土製品が作られるようになります。精華町森垣外遺跡では馬の歯を埋納した穴が見つかっています。馬を殺して神に捧げたものと考えられます。土馬は、馬を神に捧げる代わりに、雨乞いなどの祭りに用いられました。最初は写実的なものですが(写真2)、奈良時代以降には、簡素な形状となりました(写真3)。

奈良時代には土馬を用いたほか馬を寺社に奉納していましたが、馬は高価で世話をするのが大変なので、平安時代頃から板に描いた馬の絵で代えられるようになりました。これが、現代でも盛んに奉納される絵馬の始まりです。



写真2：内里八丁遺跡出土の土馬



写真3：釜ヶ谷遺跡出土の土馬